

報告タイトル

オープンイノベーションが企業の技術多角化に及ぼす空間的な波及効果
-深圳市のデータによる検証-

“The Spatial Spillover Effect of Open Innovation on Companies’ Technological
Diversification--Evidence from Shenzhen, China”

氏名(所属)

阮玉玲(復旦大学)
RUAN Yuling (Fudan University)

要旨(800字程度)

中国では、数十年にわたる急速な経済成長を遂げている。これまでの経済成長エンジンは投資主導型であった。しかし近年では、投資の減少に伴い、中国企業は持続的な成長を維持するために、イノベーション主導型に転換しようとしている。これまで中国は、イノベーション主導型の戦略を積極的に推進し、さまざまな研究主体が科学技術への投資を増やし、自主的な研究開発によってより革新的な成果を挙げてきた。しかし、成長エンジンの転換時期において、企業がイノベーションによる自己成長を実現し、それを将来的に企業成長の原動力に変えていけるかどうか、が懸念されるところである。知識スピルオーバーは、イノベーションによる自己成長の過程で不可欠である。企業による外部知識の吸収を通じて、企業内の知識と統合し、最終的に企業の技術の多角化を高めるという目標を達成することが挙げられる。本稿では、「イノベーション都市」として成長してきた広東省深圳市の郷鎮・街区レベルの上場企業の財務データと特許データを使用し、外部知識の重要な獲得手段の一つであるオープンイノベーションが企業の技術の多角化の増加に与える影響と、その空間的な波及効果を分析した。その結果について、①企業の技術の多角化に対するオープンイノベーションの正の影響は、従来のクローズドイノベーションのそれよりも強い。②オープンイノベーションは、隣接する地域に空間的な波及効果をもたらし、企業ごとが多くの共同研究を実施した場合、周辺地域の企業の技術多角化にプラスの空間的な波及効果がより強い。③ハイテク企業において、この正の空間的な波及効果は比較的強い。